記者発表資料

平成２９年５月２３日
東北地方整備局
岩手河川国道事務所

市街地の内水排除を迅速に

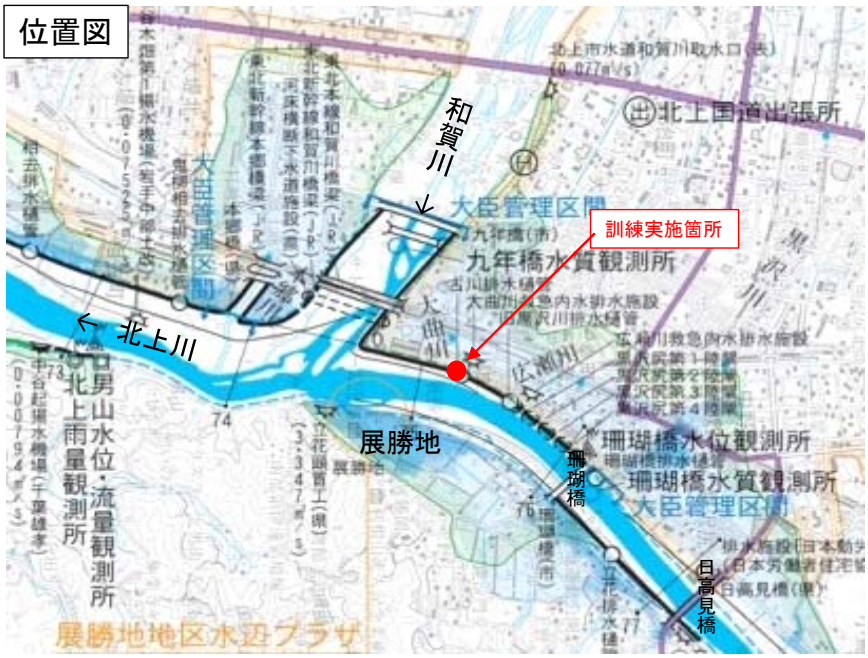
～　排水施設による訓練を実施します　～

岩手河川国道事務所水沢出張所では、本格的な出水期を前に排水施設における内水排除訓練を行い、豪雨災害等への対応に備えます。
排水施設は、市街地の内水被害を防ぐための施設であり、水沢出張所管内には北上市と花巻市に３施設設置しています。

＜排水施設における内水排除訓練＞

日時　：　平成２９年５月２５日（木）１０時～
場所　：　大曲川（おおまがりがわ）救急内水排水施設（北上市川岸１丁目地内）※下図参照
内容　：　排水ポンプを稼働させ内水排除訓練を行うもの

位置図



昨年の訓練状況





＜参考＞

近年の主要洪水での排水施設稼働実績（水沢出張所管内３施設）
○平成２５年８月洪水（前線）に伴う内水排除作業（大曲川、広瀬川、後川）
○平成２３年９月洪水（台風）に伴う内水排除作業（大曲川、広瀬川、後川）
○平成１９年９月洪水（豪雨）に伴う内水排除作業（大曲川、広瀬川、後川）

＜発表記者会：岩手県政記者クラブ・北上記者クラブ＞

問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　岩手河川国道事務所　水沢出張所
〒023-0828　奥州市水沢区東大通り1-2-14　TEL:0197-24-4173（代表）
水沢出張所長　　野口（のぐち）　暁浩（あきひろ）

別紙

位置図



訓練状況





大曲川救急内水排水施設
最大排水量：４㎥/ｓ

参考資料

北上市における内水被害の発生状況

- 北上市川岸地区（北上駅東口周辺）は、都市部を流れる支川の氾濫による『内水被害』が頻繁に発生していました。
- このため、平成2年から救急内水排水施設の整備に着手し、平成4年から暫定運用を開始、平成14年にはポンプ増強が完了しています。
- 川岸地区には、2箇所の排水施設が整備され、稼働開始以降は、大きな内水被害は発生していません。

川岸地区における主要洪水の内水被害規模

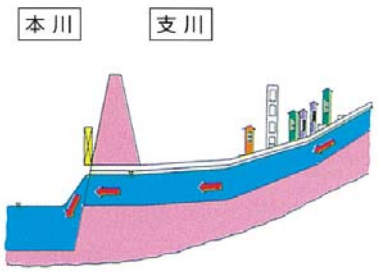
被害種別	洪水名					
	S54.8	S56.8	S62.8	S61.8	S63.8	H2.9
外水位(T.P.m)	56.76	56.89	55.67	56.97	55.41	56.75
内水位(T.P.m)	56.05	56.04	55.66	56.55	55.41	56.55
最大湛水深(m)	1.05	1.04	0.66	1.55	0.41	1.55
浸水面積(ha)	18.20	17.90	8.50	31.10	3.80	31.10
湛水時間(時間)	56	29	12	26	14	18



川岸地区における主要洪水の内水被害範囲

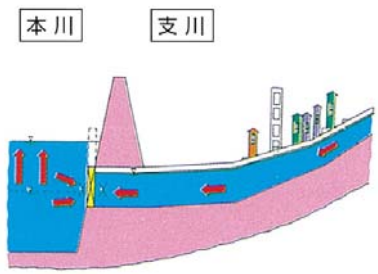
◆内水被害発生の仕組み

普段



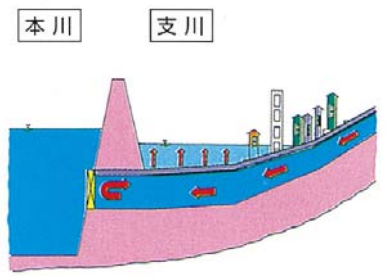
①洪水もなく本川の水位よりも支川のほうが高ければ、支川の水は本川にそのまま流れます。

洪水



②洪水で本川の水位が支川よりも高くなると逆流しないようにゲートを閉めます。

氾濫



③ゲートを閉めたことにより、支川の水は行き場を失い、周囲に氾濫します。

排水機場の整備状況と役割

- 水沢管内には、3箇所の排水施設が整備されています。
- 排水施設の排水方式は、吐水槽方式と放流管方式があり、各地区の地形条件等にあわせた方式を採用しています。

水沢管内の排水施設諸元

	花巻市 後川地区	北上市 広瀬川地区	北上市 大曲川地区
流入支川名	後川	広瀬川	大曲川
河川指定	一級河川	準用河川	準用河川
流域面積	5.65㎢	2.35㎢	2.26㎢
流路延長	5.50km	1.89km	2.11km
流入先樋門樋管名	花巻樋門	旧黒沢川樋管	古川樋管
計画最大放流量	10㎥/s	6㎥/s	4㎥/s

※排水ポンプの能力は、1台あたり1㎥/sです。

各地区の段階整備経過

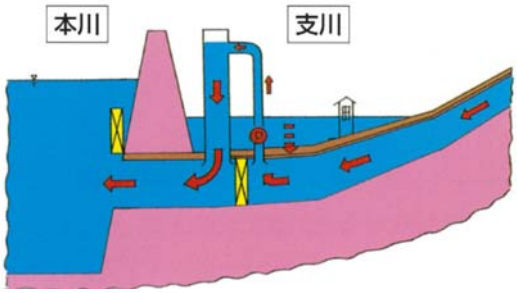
	花巻市 後川	北上市 広瀬川	北上市 大曲川
着手年次	H4	H8	H2
暫定運用（台数）	H8.12（6台）	H11.7（4台）	H4.8（3台）
増強完了（台数）	H14.8（4台）	H14.8（2台）	H14.8（1台）
ポンプ合計	10台	6台	4台



広瀬川排水施設の排水状況（試験運転）

吐水槽方式

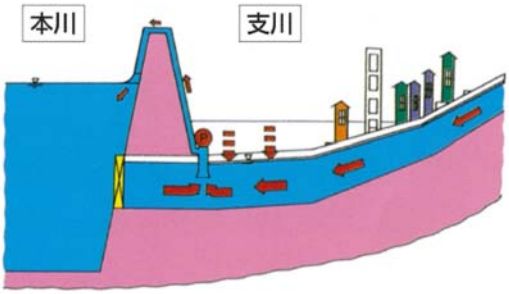
支川にたまった水を吐水槽に吐き出し、隣の排水樋管を通して本川へ排水します。



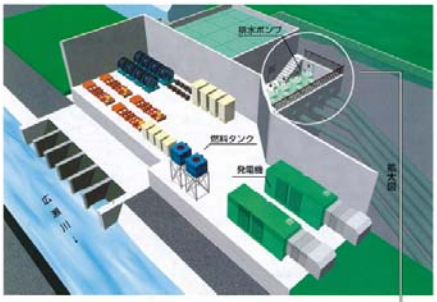
後川排水施設（花巻市）で採用

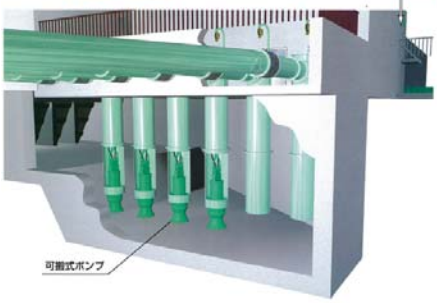
放流管方式

支川にたまった水を放流管で堤防を乗り越し、直接本川へ排水します。



大曲川及び広瀬川排水施設（北上市）で採用





操作室内部イメージ（広瀬川排水機場）